

大阪府住宅まちづくり審議会 第1回政策検討部会 議事録 概要

日 時：令和2年5月29日（金）14時00分～15時30分

場 所：ウェブ会議

- 議 事： 1. 部会長の選任
2. 今後の進め方
3. 住まうビジョン・大阪の進捗状況の点検・評価
4. 政策（基本目標、政策展開の方向性等）の方向性

【議事】

1. 部会長の選任

（事務局）

- ・審議会会長の高田委員に部会長をお願いできればと考えているが、いかがか。

（委 員）

- ・異議なし

（事務局）

- ・皆様、ご賛同ただけたということで、高田委員に部会長をお願いする。
- ・部会長職務代理は、部会長が指名することとなっているが、いかがか。

（会 長）

- ・審議会同様に、大竹委員に職務代理をお願いしたい。

（事務局）

- ・本日欠席のため、事務局より大竹委員に伝える。

2. 今後の進め方

- ・意見なし

3. 住まうビジョン・大阪の進捗状況の点検・評価

（委 員）

- ・今、コロナ禍のなかで新しい生活様式というものが問われ、次世代にとってより良い選択をしていかなければいけない中、同じタイミングで進めていくことになるが、そうした議論を本部会でどのように取り扱っていくのか。各項目の中で盛り込みながら行うのか、あるいは、ある程度まとめた議論の場を設けるのか。

（事務局）

- ・本日は、新たなビジョンの策定に向けた政策の方向性についてご議論をいただきたく、その施策展開の視点として、例えば資料3の7ページには、コロナウイルス感染症の拡大に起因するテレワークの普及や住まい方・働き方の変化について触れている。このような視点の置き方、あるいは今後この計画を定めていく中でどう考えていくべきか。また、第4回部会では、中間とりまとめ素案をお示しさせていただき予定であり、そこでもご議論いただければと思う。

(委員)

- ・点検、評価に関して、項目によってはコロナ禍を経験している今アンケートをとれば違う数値が出てくる可能性があるものもあると思う。その辺りの検証の仕方はどうしていくのか。

(事務局)

- ・確かにアンケートはコロナ発生前にとったものであり、今とれば結果が変わってくるのではないかという意見はごもっともであるが、今回の部会での議論には間に合わないと考えている。来年度には今年度のアンケート結果が出ていると思うので、来年度のビジョン改定に反映させたい。

(委員)

- ・本部会で何を議論するのか。資料2-1で住まうビジョンのストラクチャー（構造）が示されており、政策展開の方向性として2項目が挙げられているが、この2項目でいいのか、新しいものに刷新していくのか、あるいは継続していくのかということについて、これまでの成果を踏まえながら、今起こっている様々な事象を捉えながら検討するという理解でよいか。

(事務局)

- ・その通り。本日3番目の議題は、進捗状況の点検や新たな事象等を踏まえて、資料3で新しいビジョンに向けた政策の方向性のたたき台を示しており、ご議論いただきたい。

(委員)

- ・資料2-2の25ページで進捗状況の点検・評価の総括をしているが、4項目の「これまでの指標に一定成果がみられるため継続して進めるべき」という事務局の考えを前提として進めるということか。

(事務局)

- ・点検、評価の総括として、概ね一定の成果があがっていて継続すべきとした上で、資料3の中で活力と魅力、安全・安心の好循環というところを改めて継続して進めていくべきだというたたき台の案を示している。これは事務局の考えであり、果たしてそれでいいのかというところのご意見を頂きたい。

(委員)

- ・新型コロナウイルスの影響で、生活あるいは社会そのものが随分変わってきているので、かなりアップデートして対応していかなければならない。
- ・子育て世帯の流入が減少しており、子育てに関する問題点があるということだが、これはどういう理由が考えられるか。子育てに満足していないというのは、若い女性の人口減や、その後の住まいのあり方を大きく左右する要素だと思う。

(事務局)

- ・8ページ項目⑨の「子どもを大阪で育てて良かったと思っている府民の割合」の減少については、意識調査であるためはっきりしたことを言えないが、教育環境が要因のひとつである傾向がみられ、住まいまちづくりとは別の要因である可能性もあると考えている。また、他のアンケート項目でも同じであるが、平成30年度に数値が大きく下がっており、震災直後にとったアンケートであることが影響していると考えられる。また、5ページ項目④の子育て世帯の転入者数の減少については、要因を捉えきれていないところがあるが、団塊ジュニア世代のようなボリュームの大きい部分が、この子育て世帯の対象から外れてきており、そも

その母数が減っていることも要因の一つではないかと考えている。

(委員)

- ・コミュニティの関わりに満足している府民の割合が増えているにも関わらず、地域に愛着を感じていないのはなぜか。コミュニティのあり方が濃厚で特色があるというのが大阪のいいところで、それが伸びているにもかかわらず、地域に魅力がないと感じているのは、地域の魅力とコミュニティというものが別物と捉えられているのか、その辺りの分析はしているか。

(事務局)

- ・平成30年度の意識調査のため、大阪府北部地震が起こって地域の人々と助け合うような場面があり、コミュニティの関わりへの満足度が上昇したと考えられる。地域に愛着を感じない理由として、街がきれいでない、ごちゃごちゃしているという回答がみられたことから、コミュニティとは違う部分での要因があると考えているが、因果関係までは明確に分析できていない。

(委員)

- ・地域とコミュニティという単語では想像されることは異なると思う。地域というと街の様子や環境、コミュニティというと人のつながりといった社会的なつながりが意識されることが多いため結果が異なるのではないか。
- ・新型コロナウイルスへの対応については、これを取り入れるということが、まちづくりの中に健康問題を取り入れる一つの要素なのではないか。

(部会長)

- ・子どもの問題と地域への愛着の問題は、どのような属性の方がネガティブな評価をしているのかなどサンプルをもう少し分析できるのではないか。また、クロス分析等で他の項目との相互関係がわかれば、もう少し合理的な推測がしやすくなると思うので、データ分析上可能な範囲で、より詳細な分析をしてほしい。

4. 政策（基本目標、政策展開の方向性等）の方向性

(委員)

- ・昨年度までの課題検討部会での議論や現ビジョンの点検・評価から類推して組み立てていくという意味では、きちんと整理されていると思う。新型コロナウイルスによる大きな情勢の変化もそれなりに盛り込まれているとは思いますが、もっと根本的に変わるところもあるのではないか。そこをどういうふうに本部会が捉えていけるのかというのがまだ見えにくい。今後は、人口の動態、一次産業との関係性、教育や働き方との関係など、相当変わっていくと考えたと、少し引いた目線で議論をしていかないと、どの部分を住宅まちづくり政策で捉えるのか照準が定まりにくいのではないか。大阪府でも、今後、政策全体をどうするのか幅広い議論がされると思うが、そういった動きがあるのか、またどのように歩調を合わせていこうと考えているのか。

(事務局)

- ・現状では、コロナ対策で今の事業をどう執行していくのかに主眼が置かれているが、先の5月議会で、今後アフター・コロナに向けて、新たな戦略を府庁全体でとりまとめていくという答弁がされている。その中で住宅まちづくり政策が果たすべき役割は何なのか情報収集し

ながら、本部会で議論いただきたいと考えている。

(委員)

- ・課題検討部会の成果は入れているものの、現行を踏襲するイメージで物足りないと感じる。現行の「政策展開の方向性」は、総論としては大きな目標として重要であると思うが、この激しく変わっていく時代に、大阪のまちの個性や特色のある住まいのあり方などの良いところを伸ばすような政策があってもいいのではないか。
- ・現状に合う様に常にアップデートできるシステムを加えたストラクチャーで、かつ現行の課題を見える化するような構造になると良いのではないか。

(事務局)

- ・現行の政策の大きな方向性については踏襲した上で、資料3に記載の施策展開の視点の中では、「大阪がもつ多様なストック・ポテンシャル」といったところや、年度後半の部会で議論していただく予定の施策の柱、具体的な施策に大阪の魅力あるまちや住まいという視点を盛り込んでいきたいと考えている。

(委員)

- ・より力を入れていくところがストラクチャーとして見える化する方がいいのではないか。施策の方向性が政策展開の方向性に格上げされていくようなこともあるのではないか。

(委員)

- ・まちづくりと健康は両輪のようなもので、健康を視点にした評価は重要であり、評価の一つとして入れるべきではないか。また、資料3の施策展開の視点や政策の方向性を踏まえた施策イメージでは、健康というものが狭義の意味で使われている傾向があり、もう少し幅広く捉える必要があるのではないか。

(部会長)

- ・進捗状況の点検、評価については、子ども、愛着の問題に加えて健康の問題についても、もう少し分析を継続し、今後のあり方についてより明確な方向性を出してほしい。

(事務局)

- ・府で行っているアンケートについては、居住地や年齢などの属性も含めて、今後詳細な分析を進めていく。
- ・健康に関する指標については、今後新たな指標の設定の段階で検討していきたい。

(部会長)

- ・コロナウイルスの感染拡大によって見えてきた社会の大きな変化については、より広い視点からきちんとした議論をし、もう一度全体を見直すことが必要ではないか。
- ・人と人のネットワークが如何に重要か今回改めて痛感した。バーチャルな世界とリアルな世界は相互に関わっており、両方を活かしながら社会を発展させていくことが重要であり、こういったことも含め本質的なところを議論しなければ、住まい・まちづくりの将来像は考えられないのではないか。
- ・本日の事務局案については、これまでの議論の成果を踏まえて整理されており一定の評価をいただいた。今後はこれをベースに、本日の意見を踏まえて議論を深めていくこととする。

以上